

建築物名称	旭化成株式会社 D6Z PI-7,8建設工事 重合棟
受付日	令和5年1月23日
建物所在地	富士市鮫島2-1
構造規模等	鉄骨造／地上2階／延床面4, 065. 56平方メートル／新築
建物用途区分	工場
建築主	富士市鮫島2-1
工事完了予定日	令和5年7月31日

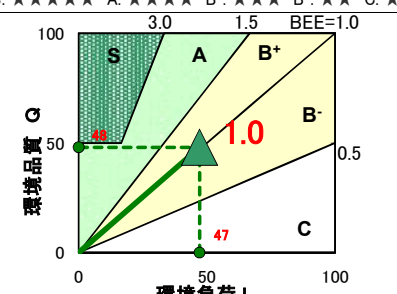
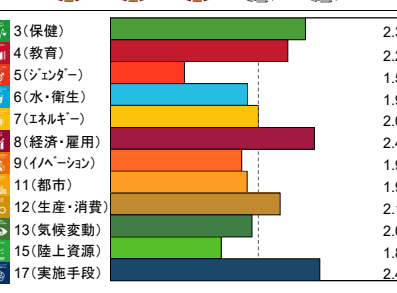
CASBEE®-建築(新築)2021年SDGs対応版

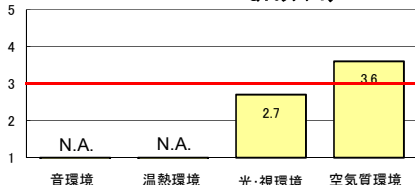
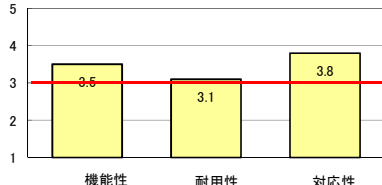
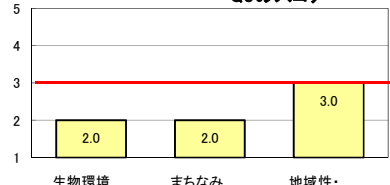
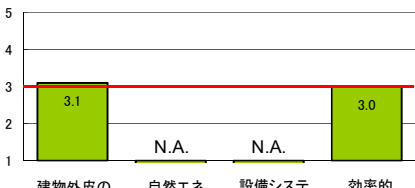
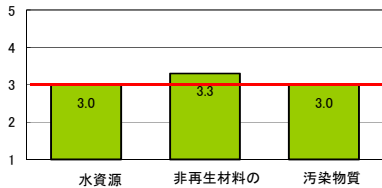
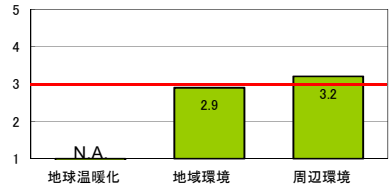
評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	旭化成株式会社 D6Z PI-7.8建設	階数	地上2F
建設地	静岡県富士市	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	20 人
地域区分	7地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年7月 予定	評価の実施日	2023年1月12日
敷地面積	573,778 m ²	作成者	磯和孝史
建築面積	2,746 m ²	確認日	2023年1月12日
延床面積	4,046 m ²	確認者	磯和孝史

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果
BEE = 1.0 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★  標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆ 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	 3(保健) 2.3 4(教育) 2.2 5(ジェンダー) 1.5 6(水・衛生) 1.9 7(エネルギー) 2.0 8(経済・雇用) 2.4 9(インフラ) 1.9 11(都市) 1.9 12(生産・消費) 2.1 13(気候変動) 2.0 15(陸上資源) 1.8 17(実施手段) 2.4 * SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)			
Q 環境品質			
Q のスコア= 2.9			
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)	
Q1のスコア= 3.1	Q2のスコア= 3.4	Q3のスコア= 2.3	
			
LR 環境負荷低減性			
LR のスコア= 3.1			
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境	
LR1のスコア= 3.0	LR2のスコア= 3.2	LR3のスコア=3.1	
			

3 設計上の配慮事項		
総合		
最先端の化学品生産施設として、更新・メンテナンスがしやすい敷設とする。		
その他		
0		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
0	天井裏点検歩廊・天井面歩行パネルの採用によりクリーンルーム外からもメンテナンスが可能な計画としている。	既存の建物と外装材を統一することで良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制した。 LED照明を採用し、設備システムの高効率化に配慮した。	省水型機器を用いるなど水資源を保護している。	広告物照明をつかわないなど、周辺環境に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要									
建物名称	旭化成株式会社 D6Z PI-7.8建設工事 重倉棟				BEE		BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度									
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価						
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.0	/5	     	ふつつ 					
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	3.2	/5	     	ふつつ 					
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.4	/5	     	ふつつ 					
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.7	/5	     	がんばろう 					
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上 	ふつつ 3 点以上 	がんばろう 3 点未満 				

3. 重点項目についての環境配慮概要									
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。					内訳対応項目				
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)					得点 3.0				
 ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用) 断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制した。 LED照明を採用し、設備システムの高効率化に配慮した。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能			
	Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備			
			3.2	3.2.1	③	昼光制御			
	Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数			
			2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔				
		2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔					
		2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔					
		2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔					
		2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔					
	Q-3	1		⑤	生物環境の保全と創出				
		3	3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上				
	LR-1	1		⑦	建物外皮の熱負荷抑制				
		2		⑧	自然エネルギー利用				
		3		⑨	設備システムの高効率化				
		4	4.1	⑩	モニタリング				
			4.2	⑩	運用管理体制				
	LR-2	1	1.1	⑪	節水				
			1.2	⑪	雨水利用システム導入の有無				
			1.2.1	⑪	雑排水等利用システム導入の有無				
			1.2.2	⑪	材料使用量の削減				
	2	2.1		⑫	既存建築躯体等の継続使用				
		2.2		⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用				
		2.3		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				
		2.4		⑫	持続可能な森林から産出された木材				
		2.5		⑫	部材の再利用可能性向上への取組み				
		2.6		⑫	有害物質を含まない材料の使用				
	3	3.1		⑬	消火剤				
		3.2	3.2.1	⑬	断熱材				
			3.2.2	⑬	冷媒				
			3.2.3	⑬	冷媒				
	LR-3	1		⑭	地球温暖化への配慮				
		2	2.2	⑮	温熱環境悪化の改善				
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)					得点 3.2				
 ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性			
				2.1.2	⑯	免震・制振性能			
			2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備			
				2.4.2	⑰	給排水・衛生設備			
				2.4.3	⑰	電気設備			
				2.4.4	⑰	機械・配管支持方法			
				2.4.5	⑰	通信・情報設備			
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)					得点 3.4				
 ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画			
		3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり			
				3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ			
■室外環境(敷地内)対策 (⑳地域性・アメニティへの配慮)	Q-3	3	3.1		㉑	地域性への配慮・快適性の向上			
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)					得点 2.7				
 ■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上)	Q-3	1			㉒	生物環境の保全と創出			
		2			㉓	まちなみ景観への配慮			
		3	3.2		㉔	敷地内温熱環境の向上			
■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善)	LR-2	2	2.5		㉕	持続可能な森林から産出された木材			
	LR-3	2	2.2		㉖	温熱環境悪化の改善			